

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設市民共創検討事業
ラーニングプログラム「はなす、あるく、きいてみる」

2026年8月8日（土）15:30
せんだい演劇工房10-BOX

芸術と震災メモリアルをつなぐ 「語り直し」

梶原千恵

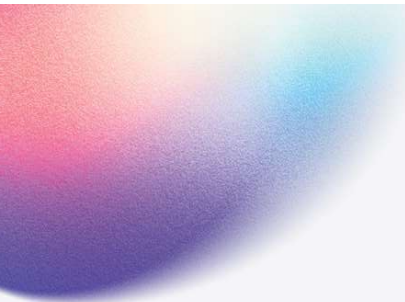
宮城教育大学 准教授
美術科教育学、アートマネジメント

今日の問い

芸術と震災メモリアルは
どう関係するのでしょうか？

結 論

「語り直し」が両者をつなぐ



人はそれぞれの物語を 生きている

- ・ 家族、仕事、学校、地域の物語
- ・ 出来事を意味づけ、選択し、つなぎ、
自分や地域を理解する
- ・ 私と他者の物語は異なる

語り合うことで 〈共〉の領域が生まれる

- 自他や主客の境界が融解した〈共〉の領域
- 共有の新たな記憶を作っていくことで、他者と共存しながら個々人が社会で生きのびてゆける
- その方法として優れているのがアート



語りとしての芸術 3つの働き

- ①形を与える
- ②距離と余白をつくる
- ③異なる語りを出会わせる

厄災は人の物語を揺るがす

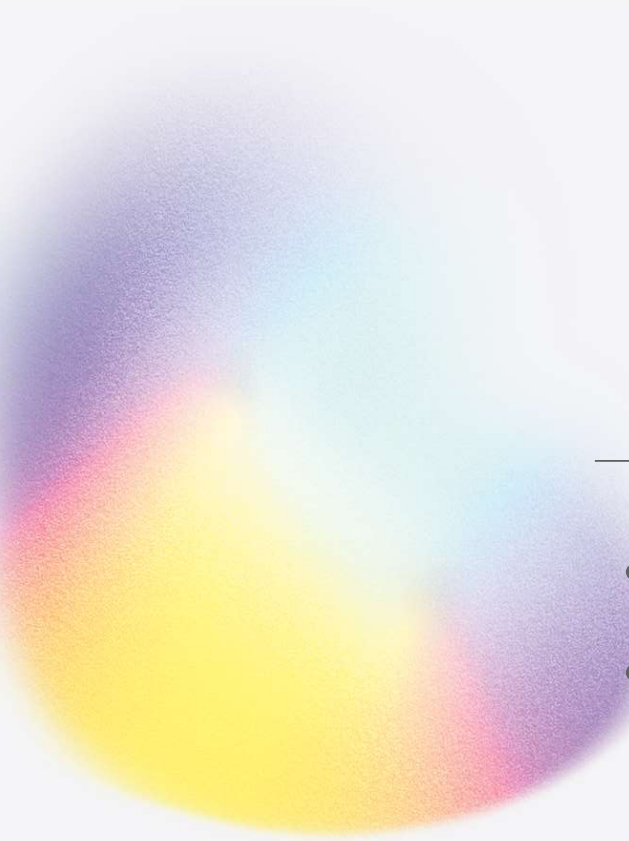
- ・ 自己像、価値観、生活、地域像が断絶する
- ・ そこで必要になるのが「語り直し」



「語り直し」とは？

- 過去の暴力や不当な行為を再度思い返しながら、その喪失やトラウマを克服し、近い未来をより社会的なものとして思い描くようにしていくプロセス（Till 2008）
- 言語でも非言語でも可能
- 個人でも複数でも可能

震災後の芸術活動の 「語り直し」

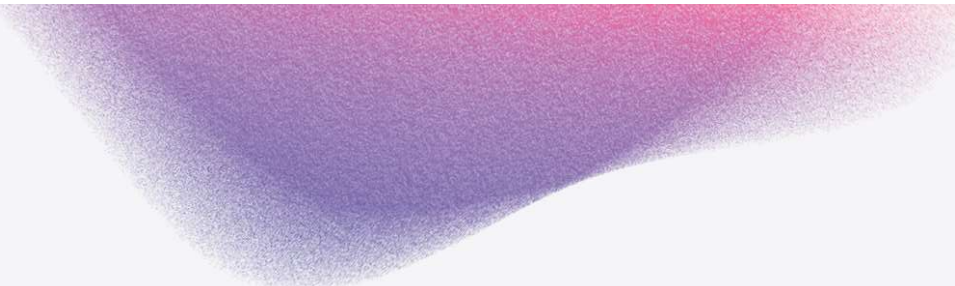


防災教育につながる 「語り直し」

- ・ 受け取る→表す→手渡す
- ・ 「受け手」から「語り手」へ

芸術×メモリアルの循環





芸術と震災メモリアルをつなぐ 「語り直し」

「語り直し」は人々が関係を
結び直すプロセス



参考文献

- 梶原千恵（2026）『災害伝承とアートプロジェクト 被災者と未災者をつなぐ』水曜社
- 中村 美亜（2013）『音楽をひらくーアート・ケア・文化のトリロジー』水声社